



もっと

酔える東広島に

景観永遠

東広島市の夜景



雪景色のなか薄らと光る灯り
統一感があり酔いしれる程美しい

景観とは

自然と人の生活が一体となつてつくられる。
人が存在する限り永遠に続き、
人次第で常に変化しうるものです。



西条の景観

赤瓦と銀黒瓦と白壁そして赤レンガの煙突のある酒蔵が多く点在する西条は緑の山々と美しく調和し、人々の心に安らぎを 与える東広島特有の景観です。

東広島は成長しています。しかしまちの景観についてはどうでしょうか？西条の酒蔵通りを始め、この地域特有の景観は急速に失われつつあります。時代の変遷に伴い景観は移ろいやすいものです。

景観保全の意識をすべての市民が共有することは容易ではありませんが、「美しい景観」を明日に引き継ぐのは私達です。

和の意識 から景観 を考える

**和を意識する事は郷土を想うこと
にも繋がってくる**

今、全国的に景観まちづくりに取り組む自治体が増えています。その背景には歴史的に形成されたまちを今後どのように生かしていくか、また文化的資源の喪失にどのように対応するかも課題となっています。戦後の復興と高度成長期の経済発展の反面、景観まちづくりに対するスピードが追い付かなかった経緯もあり、この問題は全国的な課題でもあります。

まだ国際交流が少なかった時代の建物は自然とその地域の材料を使って地域ごとに独特の技術で建築されてきました。その結果、各地域ごとに自然と統一された景観が養われていました。しかし、今の日本では様々な様式の建物が建てられ、ファッション感覚で建物を選ぶ事が当たり前となっています。また、多くの家庭が核家族となり、先人たちによる地域の伝統、文化の継承も自然と衰退し、それらを学ぶ機会も大変少なくなりました。その結果、景観だけではなく、あらゆる面で本当の日本らしさが衰退してきました。

日本を想う事を追求していけば、地域を想うことにも繋がります。なぜならそれは全て繋がっているからです。

地域を想う際に大切なことは、先人たちが残した地域の伝統、文化を受け継ぐことだと考えます。過去があるから今がある、その事を忘れてはいけません。現在のものは過去のもの積み重ねです。

また大量生産の時代は終わりました。これからは質の時代です。自分達の子孫のためにも本当に長い目で見た時、この景観まちづくりは非常に重要と考えます。

**和風建築などに多く使われる淡い
色彩はどのようにして出来たのか？**

江戸時代に、贅沢を禁止された庶民に与えられた色は、よい言い方をすれば渋い色で、粹という言葉が似合うように、例えば茶色、ねずみ色など地味な色が流行色でした。贅沢を禁止されたため僅かな明るさに差をつけることで、しゃれ心を見出していました。これを四十八茶百風(しじゅうはちやひやくねずみ)と言います。四十八の茶色と百のねずみ色を使われた事から、この名が付いたとも言われています。これが今に続く和風建築にある伝統色です。日本人の控えめな精神に表れている謙虚さがここにもみられるのではないのでしょうか。



福成寺(西条町下三永)



高屋町白市(高屋町)

この言葉よく使うけど深く考えてみてみたら...

和とは？

和という言葉は辞典では、お互いに仲良くすること。協力。調和とあります。

風情とは？

風情とは、日本古来存在する美意識の一つです。一般的に、長い時間を経て大自然によりもたらされる物体の劣化や、本来あるべき日本の四季が造り出す、儂いもの、質素なもの、空虚なものの中にある美しさや趣や情緒を見つけ、心で感じること。また、それを感じ、心を平常に、時には揺さぶらせ豊かにするということです。

趣とは？

風情のある感じまたは、しみじみとした味わいとも言います。情緒とも言います。

この当たり前の言葉を改めて見直してみると、現代社会から少し軽視されているように思えます。この言葉は、ものの価値を認め大事に使うという意味でもあるように思います。この日本この東広島をもっと活気づけるため、さらには伝統、文化を継承して行くためにも、もう一度、この価値観を見出して頂きたいものです。それがやがて郷土に対する誇りに繋がるはずです。



～ひとこと～

明治時代、安芸津の三浦仙三郎氏による軟水醸造法の発明と指導普及により東広島の酒は全国で有名になりました。

絵：日本画教室(東広島市)講師 加藤寛二氏作
三浦仙三郎の酒蔵(安芸津町)

景観について 問題ありますか？

高度経済成長の頃、全国各地で景観の乱れが起きました。それに対して、先進的な地方自治体では、自主的な景観条例の制定等を通じて取り組みましたが、法律の後ろ盾がなく、強制力に限界がありました。



氾濫する
違反広告物

全国で約1,600万件
(平成14年度)



空中を覆う電線類

諸外国の主要都市に比較し
極めて低い地中化率

ロンドン・パリ		
ベルリン		
ニューヨーク	100%	} 1977年
東京23区	99.2%	
	72.1%	
	5.2%	2003年3月



場にそぐわない建築物の建設

平等院鳳凰堂(国宝・世界遺産)
の借景となったマンション開発

国土交通省：景観法アドバイザーブックより

全国的なその他の課題

- ・全体的に不調和な景観
- ・脈絡のないまち並み
- ・無秩序に林立するビル群
- ・競い合う派手な広告看板群
- ・空き家率の増加
(2040年最大43%推定 総務省調査)
- ・経済性を優先した無秩序な開発
- ・建設産業廃棄物の処分先

東広島島の課題

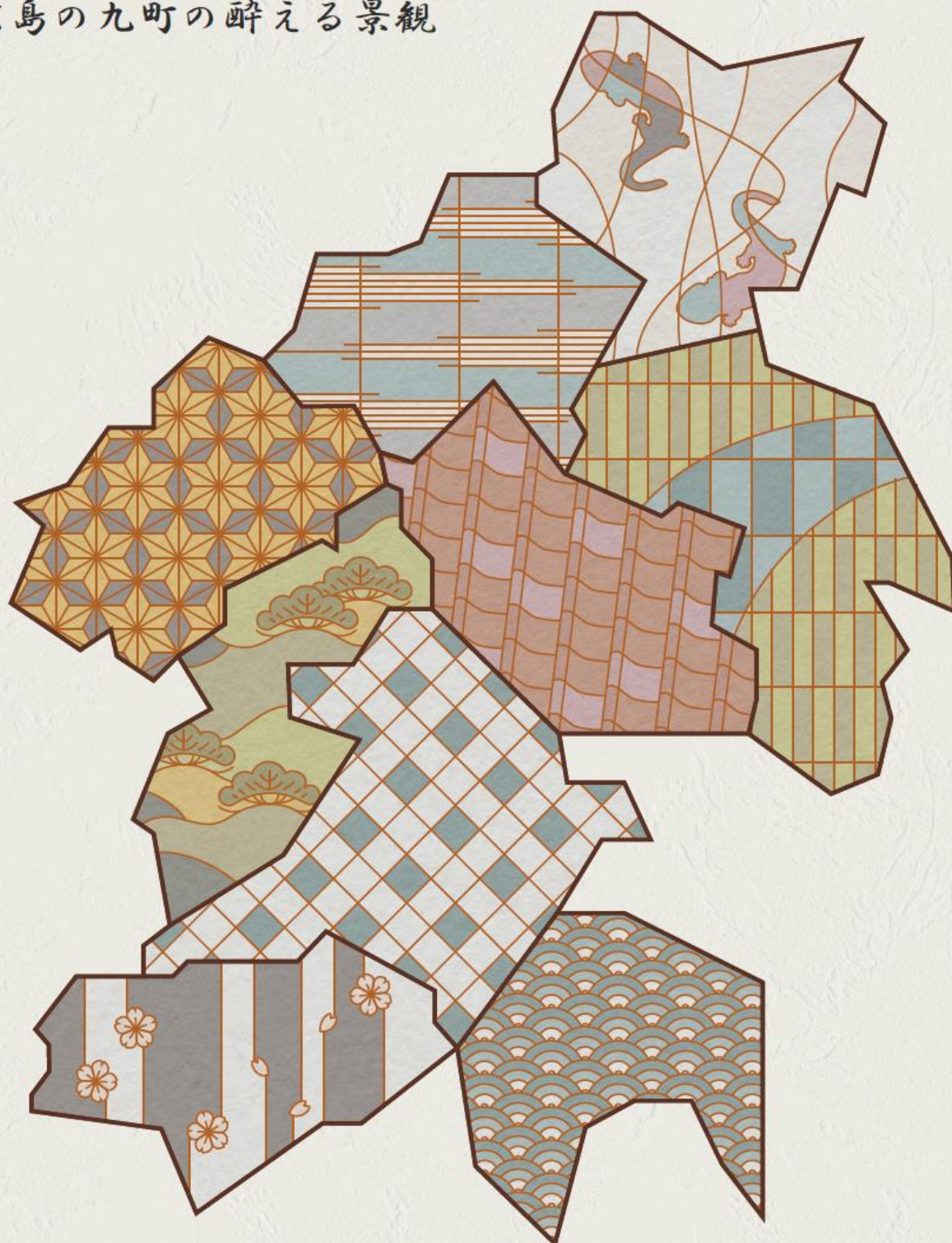
- ・全体的に不調和な景観
- ・地域らしさの減退(郷土の特色の減退)
- ・新興団地建設による空き家の増加

～ひとこと～

景観は、指揮者の指示に従って、それぞれの楽器が協力して奏でる音楽に例えられます。日本のまち並みは名楽器がそれぞれ精一杯の音量で演奏しているようなもので、曲の全体はそっちのけになっています。でも演奏者はそれで満足。聴衆も我慢しているうちに、このけたたましい騒音に慣れてくる感じに似ています。

身近な景観に目を向けてみませんか？

東広島市の九町の酔える景観



安芸津の名は、昭和十七年には安芸国の「御津」として、その名を知られました。「御津」とは、古名で穏やかな湾を示します。戦時の協力体制が生んだ名称です。

安芸津町



大芝大橋から眺める大芝島
橋の向こうには大芝島が見え、安芸津の特徴である銀黒瓦の家並みが自然の海と緑と青空にきれいに溶け込んでいます。



小松原から眺める大芝大橋
少し小高い山頂から丁度良い角度で大芝大橋が見えます。そして自然の海と山も写りこみとてもよいバランスです。自然はやはり良いものです。



淨福寺を眺める。
この辺りも銀黒瓦が多く存在します。
また、春にはお寺周辺に桜が咲きとても美しい景観を出します。



安芸津に多い形の民家
安芸津は赤瓦の家とともに、銀黒瓦の家も多く存在しています。



頂上に見える赤土畑
本当に赤いです。これはご当地ならではの特色です。



海と牡蠣いかだ
東広島唯一の海のある町です。安芸津ならではの景観です。

黒瀬町

黒瀬の名は平安時代の菅原道真公紫配流の旅歌に基づくとも伝えられています。



宗近柳国黒瀬川沿いの桜の直線道路

黒瀬川沿いにこの桜道が見えます。桜が咲いていなくてもとてもきれいで安らぎます。



黒瀬ダム

農業用貯水池として県内7番目の大きさです。眺めもよいことから、ウォーキング、レジャーなどに利用されています。



黒瀬中央公園

公園の中にとっても大きな梅檀(せんだん)の木が2本立っています。とても存在感のある木です。この木は明治45年に植えられたそうです。既に100年以上ここに存在し、様々な人にとって思い出となってきた木ではないでしょうか。緑豊かでオアシスのような空間です。



宗近柳国を流れる黒瀬川

黒瀬の中心を流れる黒瀬川。流れも穏やかで川の向こうの家々と馴染み、とても和みます。

津江の県道34号線から東広島県道が見える景観
谷間をくぐりこの位置から丁度、町内が見渡せます。この辺りの景観は赤瓦と銀黒瓦の家々が入り混じっています。南に位置する赤瓦景観は黒瀬付近でほぼ終わりとなります。茶色と黒のコントラストが独特の雰囲気を出しています。



河内町

河内の名は町の中心部に存在する大字から命名されました。それは村の時代、四大字合併の際いづれも河の字があることから、これを集めて大河と言いました。のちに河内村と改め、次いで河内町となりました。



中河内の国道432号線から見える沼田川とJR線路橋梁、そして山裾にある家々

わりと川幅の広い穏やかな流れの川と趣のある線路の橋梁、そして緑の中に点在する家々。自然と共生しているのがよく分かる景観です。



広島空港大橋が見える景観

この橋はお隣の三原市に位置しますが、借景として河内町から程よい距離で見えます。とても存在感があります。ひとつのシンボルとしてこれからも記憶に残っていく景色に違いありません。



JR河内駅より北にある古い通り

駅より少し北に向かうと赤瓦屋根の住宅が連なっています。自然に形づくられた風情ある通りです。



宇山の山頂付近から見下ろす赤瓦集落

山頂に向けて登っていると赤瓦の集落があります。緑の山に家屋が地形に合わせて配置されています。近くに銅鉱試掘跡もあります。



入野の国道432号線から見える線路の上を通る水路

線路の上にコンクリート製の水路があります。珍しい景色です。水の流れもあり、この場所にとっても馴染み特徴付けています。

西条町

西条の名は飛鳥時代の大化改新によって賀茂郷がこの地方の呼称として生まれました。やがて郷の分割が行われるようになると、今日、日本のいたるところに東・西・南・北に「条」又は「郷」のついた地名が出来たと言われています。また当時は東条も存在していました。



広島大学と赤瓦景観のある田園風景

広島大学の建物に使われている外壁の色のコンセプトは周りの自然に合わせ東広島に多い赤松の幹の色を基調とした茶色にしています。赤瓦にも合い周りに溶け込みとても美しい景観です。



私の大好きなアーカイブス写真コンテスト
入選作品「鏡山公園」

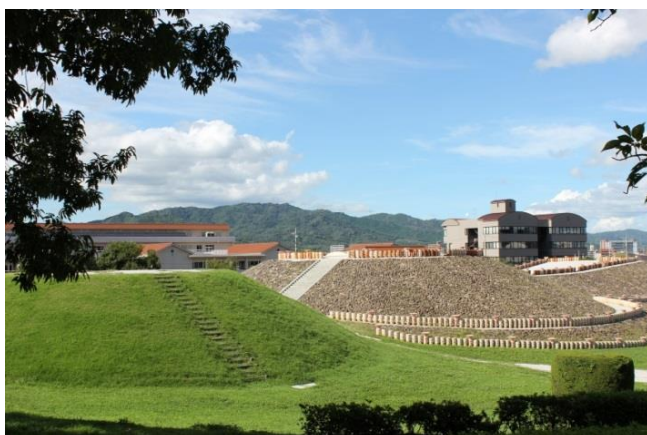
鏡山公園

山頂には鏡山城跡もあり東広島を代表する公園でもあります。とても計画的に環境に整備されていて誰もが心癒される空間ではないかと思います。



広島中央サイエンスパーク

研究機関等様々な建物があり、また緑豊かな配置計画がされており、とても心が安らぐ環境となっています。また周りを散歩出来るため池もあります。このため池の数の多さは広島県は全国で2位となっています。(2001年データより)



三ツ城古墳

この古墳は広島県で最大の大きさです。築造時期5世紀頃と推定されています。1990年から復元され今に至っています。公園として周りを上手く整備して心も落ち着く場所となっています。また奥には郷土の特色を上手く生かした三ツ城小学校と東広島商工会議所会館が見えます。



ブルーパール通り

JR西条駅から広島大学に繋がる道路。緑豊かで電線も地中化しており美しく気持ちよく通る事の出来る道路です。景観に配慮している道路の一つでもあります。



私の大好きなアーカイブス写真コンテスト入選作品「堂」

志和のほたる
地域のまつりとしても定着したほたる祭りです。ほたとすると趣のある家屋が夕日にきれいに映し出されています。



志和堀小学校
とても趣のある小学校入口です。

志和町

志和の名は建武（西暦1300年代）には既に「志芳荘」という荘名がありますが、詳細は不明です。

江戸期以降、志和と表記され、それまでは志芳の文字を用いていました。



志和堀に抜ける県道340号線からの景観

この道筋を通っていると一瞬だけ見えるこの美しい景色。典型的な盆地の山間に田園と家々が見えます。右奥には標高735mある安駄山が見えます。



時報塔

1922年に建造され今では地域のシンボルとなっています。

築92年程ですが、とても趣があり地域にとって無くてはならない存在になっています。デザインも良くこの場所にとっても似合います。



田園風景の中にある元酒蔵

田園風景とよく合う赤煉瓦の煙突と歴史を感じる赤瓦の元酒蔵。瓦一枚一枚微妙に色に違い、味のある色を出しています。



並滝寺

733年に建立されたと伝えられています。日本らしくとても絵になります。

高屋町

高屋の名は大和時代に河内国（兵庫県）から高屋連が移住居所にしたためと伝えられています。



貞重にある貞重橋

とても趣のある橋です。年月が経てば味の出るものはとても風情があつていいです。愛着も湧き、ものを大切にする心も生まれると思います。



高美が丘団地入口の街道

計画的に景観に配慮してきれいに植樹されているため、団地の住民の方はとても気持ちよく通過できるのではないかと思います。



赤瓦集落のある造質の景観

上の写真の川上には赤瓦の家屋が密集している場所があります。自然に残った景観の価値観を再認識し、後世に残していってほしいものです。

貞重の景観
とてもよい角度からの夕日の景色です。なぜか和みます。



白市の街並み
東広島市の東部に位置している静かな町です。町は周囲より一段と高い丘の上に展開しています。これは自然の要塞として中世に白山城を築き、その城下町として発祥したことを示しています。今では意識して残されていて今後が期待できます。



種やかな川と緑豊かな造質の景観
川のせせらぎを聴きながら、この小川のそばでくつろげば心も休まり種やかな気分になるはずです。



豊栄町

豊栄の名は豊かに栄えるという意味で昭和十八年に当時の県知事横山助成氏により命名されました。

吉原の景観

三次市三和町との境目にある景観です。当たり前の様に自然に溶け込んでいます。



清武から三次市三和町に抜ける国道375号線

東広島県の最北端でこの道は約5kmに及ぶ気が遠くなるくらいの直線道路です。この辺りも調和のとれた景観です。



板鍋山山頂からの眺め1

標高は757.2mです。秋には霧の雲海が広がります。こうしてみると人の営みは自然の中にあり自然のほんの一部とわかります。緑豊かな自然を大事にして共存していく必要があると実感します。



板鍋山山頂からの眺め2

山頂には岩山があります。この山は車ででも行く事が出来ます。この山は高過ぎないため、まちの家々がよく見えます。

八本松町

八本松の名は、江戸時代に今のJR八本松駅の西に一里塚があり、そこに根元から四本ずつ枝が分かれ街道の上で交差した松が植えられていたことに由来します。それは旅する人々の話題となり、やがて「八本松」という名がつけました。

原にあるかやぶき屋根の家
茅葺の屋根を維持するのは容易ではありませんが、きれいに保存されています。きっとこの家は何百年も存在しているのだと思います。
日本の風景にとっても似合います。



正力の棚田

自然と形になったにしては芸術的な形をしています。人も自然の一部、自然はやはりいいものです。



吉川の柳のある景色

田園風景の中の川沿いに約300mにも及ぶ柳が植えられています。いつ植えられたのかわかりませんが、きれいに並べられて美しいです。



原の広島県立総合技術研究所農業技術センターの見える景観

田園風景ととてもよく馴染んでいます。決して派手な存在ではありませんが、大型の建物にしては、決して浮き立つことなく周りに上手く調和しています。

福富町

福富の名は昭和三十年の当時の
広島県知事の大原博夫氏により
命名されています。町名出典は
二宮尊徳「二宮翁夜話」から引
用されています。
また昭和の大合併により福富
町が誕生しました。

下竹仁の沼田川付近からの眺め
この川は福富ダムに繋がっています。
福富らしくとも心が落ち着く場所です。



県道340号線から見える山裾に広がる見事な赤瓦景観

福富ダムから志和に繋がる道筋から見える赤瓦集落です。これほどまでに赤瓦で統一されているのは大変貴重です。これは絵になる風景ではないでしょうか。これからもこの貴重な景観を大事に残していってほしいものです。



福富ダムの橋梁

骨組み全体が茶色に塗装され上手く自然に溶け込んでいます。これから時間が経てば経つほど趣のある橋になりそうです。



福富ダム

道の駅、公園も整備されて、自然の風景を楽しむ場として有名です。ダムとは人工的につくられるものですが、上手く自然と溶け込んでいて美しく、観光地にもなっています。

赤瓦の由来

赤瓦とは来待瓦とも言われます。来待(きまち)とは釉薬の名で瓦の表面に塗る凍害に強い素材です。

この赤瓦は江戸時代後期に石見地方から伝わったとされています。そこからの主な伝播ルートは3つあります。

一つは北前船により遠くは北海道まで伝播しています。二つめは江の川水運により石見から山陽に伝播しています。三つめは江戸時代中期に都野津商人という行商集団によって各地に伝えられました。

東広島には今も赤瓦の家が多く存在しています。しかし、この貴重な財産である赤瓦景観は年々減少傾向にあります。時代も変化していくことから全てが瓦という形でなくてもよいと思いますが、この郷土色を生かした景観まちづくりを考えていきたいものです。

景観法って知っていますか？

今、全国どこに行っても同じようなまち並みになりつつある現状から...

全国の景観まちづくりに伴い景観法が平成16年に制定されました。そこには基本理念が描かれています。

景観法の基本理念：良好な景観は地域固有の国民的資産

景観は、その地域の自然や歴史、文化のうえに人々の営みを通じて形成されるものです。景観法は、地域特性に応じた運用が可能な柔軟な制度です。

基本理念1

良好な景観は、美しく風格のある国土の形成と潤い豊かな生活環境の創造に不可欠な国民共通な資産として、現在及び将来の国民がその恵沢を享受出来るようにする。

基本理念2

適正な制限の下に、地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動とが調和した土地利用がなされるようにする。

基本理念3

地域住民の意向を踏まえ、それぞれの地域の個性及び特色の伸張に資するようにする。

基本理念4

地域の活性化に資するよう、地方公共団体、事業者及び住民により、その形成に向けて一体的な取り組みがなされるようにする。

基本理念5

現にある良好な景観を保全することのみならず、新たな良好な景観を創出することを含むものであることを旨として、良好な景観の形成を行うようにする。

国土交通省：景観法アドバイザーブックより

景観法制度活用イメージ：地域景観



景観法制度活用イメージ：まちなみ景観



景観法の目的と東広島の現状

西条酒蔵通りに関しては景観形成のルール作りの動きはありますが、その他地域に関しては特になのが現状です。景観法の制定は手段を用意しただけであり、全国各地で活用されてこそ、発揮されます。今後の動きとしては、地方公共団体が地域の独自性を生かしつつ制度を活用していく必要があります。また行政だけでなく住民も自分達の問題として関わっていく必要があります。今後いかに住民の間で関心が高まるかが、景観法の普及にとって非常に重要であるといえるでしょう。



私の大好きなアーカイブ写真コンテスト
入選作品「酒蔵」(西条町)

地域の再発見

日頃見慣れた景観も、市民の感性で見つめ直すと、そこに地域の文化の再発見が生まれることがあります。それぞれの地域にご当地景観があってもいいのではないのでしょうか？そして、子ども達にここで育ったという「記憶」を心に刻み、この土地の空気を吸う事で暮らし方、風土を感じて育ってほしいものです。また景観は市民の共有の財産でもあります。木を見て森を見ずということわざがありますが、一步下がり、周りの風景と照らし合わせて、まちを一体として見る事が出来れば、この先に残していかなければならないものも自ずと見えてくるのではないのでしょうか？

良好な景観の形成による波及効果

全国各地での良好な景観の形成は、住民や行政職員の景観意識向上や、コミュニティ活動の活性化の他、来訪者の増加や地域ブランドイメージの向上など、多くの波及効果を生んでいます。また、景観形成の効果はまちの規模を問うものではありません。地価にも良い影響をもたらすでしょうし、さらには地場産業の振興にも貢献するでしょう。



私の大好きなアーカイブ写真コンテスト入選作品「姫みこし」(西条町)

郷土色を生かした建築物



古民家café一葉(志和町)

空き家になっていた古民家を修繕して上手く再利用しています。社会問題でもある空き家対策にも貢献しています。



東広島市中央図書館(西条町)

洗練されたデザインの図書館。プールバール通りからは見えにくいですが屋根は曲線美のライン上に赤瓦で葺かれています。



くぐり門(西条町)

現在は改修され観光拠点となっていますが、築年は1927年で、今と同じく屋根が繋がっていました。当時は演劇や映画の上映が行われていました。今見事に郷土の特色を上手く生かした再生が行われている場所の一つでもあります。

公共の建築物等、東広島にはまだまだ郷土色を生かした建物が沢山あります。



Bar enishi(西条町)

伝統の田舎建をスタイリッシュにデザインされたおしゃれなBAR。



東広島市役所(西条町)

本市の伝統である「来待色」(赤瓦)をイメージした外壁と学園都市をイメージしたガラスにより歴史と現在を重ねたデザインを構成しています。

景観とは常に自然と深い繋がりがあります。

景観とは人間によって造りだされた
ものです。またこの写真からわかるよ
うに景観は自然の中のごく一部です。
そして我々も自然のごく一部です。我
々のくらしは自然とは決して縁を切る
ことができないからこそ、永い未来を考
えた時、景観まちづくりに取り組む必
要があります。



今残念ながら、本当の日本の姿は、
探さないとなかなか見つかりません。こ
の当たり前過ぎる景色をもう一度再
確認して下さい。このまちにしかない宝
、郷土の個性がいかに関心事であるか気
づいて頂ければ幸いです。そしてこのま
ちがさらに美しくなる事を心から願ひ
ます。

あとがき

「景観十年、風景百年、風土千年」と言われるように、景観は今の暮らしを反映するものであり、風景は時を感じるもの、風土は時の中に歴史、文化が読み取れるものです。

景観とは過去に生きた人達と、現在の者と、これから生きる人達の共同作品です。過去の人達の英知、積み重ねた文化や歴史を受け継いで私達の今があります。私達は、それを次の世代に伝承していく責任があります。例え何百年かかろうとも景観は変化し続けることからのような姿にも変える事が出来ます。本パンフレットが郷土の繁栄のため郷土の特色を生かした景観まちづくりの礎となれる事を心から願います。

最後まで、ご覧頂き誠にありがとうございました。

このパンフレット本案件に対するご意見、ご感想などございましたら左記の連絡先までメッセージをお願いします。

また本パンフレットはインターネット上でも閲覧出来ます。

景観永遠 で検索

発行日

2014年11月

発行

一般社団法人東広島青年会議所

2014年度笑顔あふれる東広島創造委員会

東広島市西条昭和町17番23号田中ビル内

TEL 082-422-6889 FAX 082-422-0056

<http://www.hhjc.jp> E-mail info@hhjc.jp

編集協力

国立広島大学 大学院 大学院地理学教授 岡橋秀典氏

国立広島大学 大学院 大学院教育学研究科教授 江崎哲氏

国立広島大学学生 田丸治樹氏他

日本画教室(東広島市)講師 加藤寛二氏

正副寺山公園からの眺め(安芸津町)
瀬戸内海を一望する公園で、約1,500本の桜の名所で、桜の開花時期には多くの花見客で賑わいます。満開の桜を観る事は誰もが心安らぐのではないのでしょうか。

With your smile.
~ともに生きる~
笑顔あふれる東広島のために



Junior Chamber International Higashihiroshima

私の大好きな東広島アーカイブス入選作品「正副寺山公園」(安芸津町)



酔いしれるほど美しい

東広島の景観を守りたい